

第6学年 外国語活動学習指導案

は組 男子17名 女子19名 計36名

指導者 J T E 高 味 淳

A L T Christopher Sneller

1 単 元 “I like ～. What () do you like?” ～広げよう、つなげよう、君の思い～

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「“Who am I?”～わたしはだれでしょう?～」の活動を通して、相手と積極的にコミュニケーションを図りながら、自分の好きなもの等を相手に紹介したり、互いに理解したりすることの楽しさを味わうようになってきている。また、自分の好きなもの等の言い表し方や文化について、外国と日本の場合とを比べたり、他教科等で学んだことを生かし調べたりして、もっと外国の様々なことや友達のことについて学びたい、知りたいと願うようになってきている。さらに、学んだ英語を話したり聞いたりして自己紹介するだけでなく、書いたり読んだりすることを通して慣れ親しみながら、目的や相手、場面を意識したコミュニケーションを継続したり、コミュニケーションの工夫をしたりして英語を使えるようになりたいと願うようになってきている。

そこで、本単元では、相手に好きなものやことを紹介しながら、コミュニケーションの楽しさを味わう「“Who am I?”～わたしはだれでしょう?～」を発展させ、紹介するだけでなく、相手に尋ねたり、認め合ったりする疑問文やつなぎ言葉（Me too.等）の英語を取り入れ、相手と理解し合う活動を設定する。この活動を通して、自己紹介をし合うことのよさ、また紹介し合うことで互いに理解することのよさに気付かせたい。また、自己紹介に必要な英語をより正確に使うことで、英語を使う喜びや楽しさを味わわせていきたい。

この学習は、アフリカ圏に住む人と、学んだことを生かして実際に自己紹介をしたり、鹿児島のことを話したりする「“Welcome to Kagoshima!”」へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、自己紹介をし合うことは、幼少期の頃から日常的に行っており、親近感があり、互いを知り合うための大切な行為であると考えられる。また、自己紹介で用いるあいさつや自分の名前等の英語は、低学年の頃から慣れ親しんでいるため、相手とコミュニケーションを図る一つの手段として、安心感をもてるものと考えられる。さらに、自己紹介で用いる趣味や特技等の英語は、どのように言えばよいか分からなくてもジェスチャーを使ったり、知っている英語に置き換えたりすることができ、友達と協働しながら考えるよさに気付きやすいものと考えられる。そのため、これまで学んだ英語やジェスチャー等の表現方法を使って、自分のことを伝え合う活動を設定することは、互いのことを理解することができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するのに適している。また、自己紹介に必要な表現の一例として、好きなものや趣味、特技等の英語は、外来語として日常触れるものも多く、言葉の面白さや豊かさに気付くことにも適している。

このような「自己紹介」という話題を基に、コミュニケーションを図る楽しさや、自他に関する言語や文化への体験的な理解を深めたりするために、ツールとしての英語をより正確に、またより多く使ったりできるようなコミュニケーション活動を重視していきたい。そして、互いに協働することで、さらに積極的にコミュニケーションを図っていきたいという願いが連続・発展していくよう活動を展開していきたい。

具体的にはまず、昨年度のJICA研修で来校したアフリカ圏内の人との交流のビデオを見て、気付いたことや考えたこと等を話し合い、自己紹介の大切さや意義について考えさせ、本単元に対する興味・関心を喚起させる。そして、子どもたちが目的・相手、場面意識をもって活動に取り組めるよう、外国の人に英語をより正確に使うって自己紹介をするというめあてを設定し、どのような内容・方法で自己紹介をし合うのか考えさせる。また、チャンツや自己紹介に必要な英語を使った

活動を通して、自分なりの自己紹介ができるように必要な英語に慣れ親しませていく。

次に、これまで学んだ英語を生かしながら、どのような英語を使えばよいか、また英語が思いつかない場合はどのようにすればよいか等をグループで話し合い、コミュニケーションが継続できるようにさせる。そして、話し合ったことを基に、ペア活動で自己紹介を行い、より正確に英語を使えるようにする。さらに、自己紹介に使った基本文(“What () do you like?”)や簡単な単語を書くことを通して英語を習得させ、英語を使う喜びや楽しさを味わわせる。

このような学習を通して、英語をより正確に使う自己紹介をするための内容や方法を考え、相手と働き掛け合い、自他のことをよりよく理解しながら、コミュニケーションを図る楽しさを味わうことができるものとする。

(3) 子どもの実態 (対象者：6年は組児童36名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示)

- ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について
 - 外国の人に自己紹介をする時、抵抗があるか。
 - <いいえ (28) >
 - ・(習っていて、経験があって) 自信がある (18)
 - ・恥ずかしさを感じない (5) ・相互理解ができる (5)
 - <はい (8) >
 - ・どのように接すればよいか分からない (3)
 - ・恥ずかしい (3) ・英語を話すのが苦手 (2)
 - 初めて会った人のどんなことを知りたいか。
 - ・好きな○○ (21) ・名前 (17) ・趣味、特技 (16)
 - ・出身国(地) (6) ・性格 (4)
 - ② 外国語への慣れ親しみにについて
 - 自己紹介の時に、どんな英語を使うか。(言えた英語)
 - ・名前：My name is~.(36) ・好きな○○：I like~.(18)
 - ・気分：I'm fine.(13) ・挨拶：Hello. Nice to meet you.(10) ・年齢：I'm eleven years old.(8)
 - ③ 言語や文化に関する気付きについて
 - 自己紹介はなぜ必要か。
 - ・相手のことをよりよく理解できる (25)
 - ・交流しやすくなる (8) ・会話が成り立たない (2)
 - ④ 学習・生活経験に関する内容について
 - ア 英語を書いたり、読んだりしたいか、またその理由
- | はい・いいえ | 主な理由 |
|---------|---|
| はい (34) | ・楽しそう、知りたい、やってみたい等の好奇心 (24) ・将来役に立つ (7) ・視野が広がる (3) |
| いいえ (2) | ・できない (1) ・必要ない (1) |
- イ 自己紹介をする時に、大切なことや工夫することは何か。
 - ・聞き取りやすい声の大きさやスピード (17) ・印象に残るものを使う (9) ・発音 (7) ・ジェスチャーや握手を取り入れる (4) ・つなぎ言葉を使う (3)

本学級の子どもたちは、外国の人に自己紹介することに大部分が抵抗を感じていない。しかし、自己紹介を苦手とする子どももいる。自己紹介をする方法やどんな英語を使えばよいか分からないことが原因の一つと捉える。また、初めて会った人への興味・関心は、自分自身が自己紹介をする時に言うような身近な内容のものであった。(①)

自己紹介の時に、言える英語に関しては、第1学年から慣れ親しんでいる名前や好きなもの、ことであった。より正確に英語を使える技能に個人差があった。(②)

自己紹介の必要性については感じているが自分が主体である回答が多い。他者意識をもつことのよさに気付いていないということが考えられる。(③)

学習・生活経験に関する内容については、英語を書いたり、読んだりすることに対し、大部分が好意的である。「楽しそう」等の心情面や将来性といった実用面を加味した理由が挙げられている。一方で少数であるが、批判的な子どももいる。書くことや読むことの

経験不足やそのよさに気付いていないことが原因と捉える。(④-ア) また、自己紹介をする時に、大切なことや工夫すべきことをそれぞれが捉えているものの、技能面に関する内容が多い。(③の内容と関連付けて、自己紹介をするよさや意義について考えさせていく必要がある。(④-イ)

(4) 指導上の留意点

ア 『活動のめあてを立てよう』では、よりよい自己紹介ができるようにするために、自己紹介をするよさやどんな英語を使えばよいか話し合うことで、今後の自分なりの目標を立てさせる。また、自己紹介をする際、子どもたちが使いたいと考えている“What () do you like?”等の英語にも慣れ親しめるようチャンツやゲーム活動を効果的に取り入れていく。

イ 『自己紹介ができるようになろう』では、自他のことをよりよく理解するために、つなぎ言葉等を交え、より多くの英語を使って互いに自己紹介させる。また、自己紹介に必要な英語を書く

ことで、英語を使える喜びや楽しさを味わわせるようにする。

ウ 『もう一度やってみよう』では、これまでの学習の成果を味わわせるために、振り返ったことを生かして、もう一度自己紹介に挑戦させる。また、英語を使う喜びや楽しさを味わわせるために、これまでの自分と比較させながら、振り返りカードに学びを書かせ、成長を実感させる。

3 目 標

- (1) 「好きなものを尋ねる英語を使って相手のことをよりよく知りたい。」という願いのもと、積極的に自己紹介をしたり、互いを理解するためのコミュニケーション活動をしたりする。
- (2) 自己紹介を通して、互いの好きなものを知ることで多様なものの見方や考え方に気付いたり、好きなものを表す英語の面白さや豊かさに気付いたりする。
- (3) チャンツやコミュニケーション活動を通して、自己紹介に使う英語に慣れ親しむ。
- (4) 自己紹介に適したコミュニケーションを行うために、相手に聞き取りやすい声量、スピード等に気を付けさせたり、印象に残る内容を伝えたりしてコミュニケーションを広げる。

4 指導計画（全4時間）

楽しさの深まり	時間	過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
・自己紹介に必要な英語や内容を考えることで協働した活動への見通しを立てる楽しさ ・自己紹介に必要な英語を使ったゲーム活動をする楽しさ ・自己紹介をすることで互いに理解し合う楽しさ ・自己紹介をする英語を書いたり、考えて使ったりする楽しさ ・互いの成長を実感し、ともに英語を使える喜びを味わう楽しさ	1	意欲をもつ	I 活動のめあてを立てよう Thinking Time. ・ 昨年の JICA 研修の様子を振り返る。 ・ 自己紹介の意義等やこれまでの自分の課題等について話し合う。 ・ 単元のめあてを話し合う。 自己紹介を英語でできるようになろう。 ・ プラクティス、チャンツをする。 ・ “Who am I? Game” をする。	○ 外国の人に自己紹介をするよさに気付かせるためにアフリカの人と交流しているビデオを見せ、「自己紹介を英語を使って行うことでどんなよさがあるか。」と問い掛ける。 ○ より多くの英語を使って自己紹介をするために“I like ~.”だけでよいか。」と問い、会話の広がり気付かせるようにする。
	2	つかむ	II 自己紹介ができるようになるよう ・ “I like ~.”を使ったスキットを見る。 ・ “What()do you like?”を使う大切さやよさを考える。 ・ プラクティス、チャンツをする。 ・ “What()do you like?”を使ったゲーム活動をする。 Let's Introduce Ourselves. ・ “What()do you like?”を使ったスキットを見る。 ・ 会話を広げる内容や方法を考える。 ・ グループやペアでやってみる。 ・ 英語を書いて慣れ親しむ。	○ 自己紹介に必要な英語に慣れ親しませるために、ゲーム活動を取り入れる。 ○ 自己紹介の表現を増やすために、ワークシートに考えられる表現を話し合わせる。 ○ 自己紹介で使う英語に慣れ親しませるために、ノートに文字を書かせる。
	3 (本時)	挑戦する・広げる	Let's Introduce Ourselves Again. ・ もう一度、ペアやグループで自己紹介をする。 ・ 新たな英語を付け加えたり、表現を修正したりする。 ・ 単元を通しての学びを振り返る。 英語を使って話す自信がついた。早く外国の人と交流したい。	○ 自己紹介を英語を使ってできた喜びを味わわせるために、自己紹介をもう一度し、改善点を話し合い、よりよい表現をさせる。 ○ 今後の“Welcome to Kagoshima!”への意欲を高めるために、活動の態度面や技能面等についての成長を取り上げ、称賛する。
	4	振り返る・生かす		

5 本 時 (3 / 4)

(1) 目 標

“What () do you like?”をできるだけ正確に使いながら、積極的にコミュニケーション活動に取り組む。また、つなぎ言葉(うなずき、繰り返し等)等を活用しながら互いの思いを広げたり、つなげたりしようとする。

(2) 本時の展開に当たって

アフリカの人と、互いの思いを理解し合えるために、英語を使って話す機会を多く設ける。次に、さらに話す意欲を高めるために、“What () do you like?”の()部分に自分が尋ねたいことを入れ、どのように表現すればよいか考えさせる。その際、出てきた英語は黒板にALTが書き、使えるように口頭練習をさせ、会話を広げるように働きかける。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	主な語彙や表現	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 Communication Time		8	○ 必要感をもって英語を使う意欲を高めさせるために、本学級で実施した「アフリカの人に聞きたい好きなもの Best 5!」の結果を基に、めあてを設定する。
	2 Watching Skit	A: What sport do you like? J: I like soccer. J: What animal do you like?		
つかむ	3 Meeting today's target Let's Doing Introduce. ・好きなものを表す英語を使って会話を広げよう。		5	○ “What () do you like?” を使えるようにするために、ペアで好きなものを尋ねる会話をさせる。 ○ 相手を理解するための英語を増やすために、「好きなもの Best 5!」に入っていない英語で、アフリカの人に尋ねたい()の英語をウェビング法を使ってALTやJTE、友達と協働しながら考えさせる。その際、アフリカの人が興味をもったり、会話を広げたりできるような内容であるかを考慮させる。
	4 Practice	A: What sport do you like? B: I like soccer. A: I like basketball. B: Me, too.		
挑戦する・広げる	5 Pair Activity I		25	○ “What () do you like?” を使って話すことができるようにするために、グループで互いに尋ねたり答えたりするコミュニケーション活動を取り入れる。 ○ 英語が使える楽しさを実感させるために、相手の気持ちを踏まえるつなぎ言葉も活用しながら好きなものを尋ねる会話をさせる。
	6 Meeting	【話し合い例】 C1: アフリカの人に好きなアイドルとか聞いても分からないよ。 C2: じゃあ、動物はどうかかな? C3: 日本との違いがあるかもしれない。おもしろそう。 C1: 「かば」って英語で何というのかな?		
	7 Activity 〔・英語の使用量 ・表情・声量等〕			
振り返る・生かす	8 Pair Activity II	A: What sport do you like? B: I like soccer. A: Soccer? Good! B: What animal do you like? A: I like cats. B: Me, too.	7	○ 自分が知った英語に慣れ親しませるために、書きたい単語をノートに写させる。 ○ 自他の成長を味わわせるために、「英語を使って話したり書いたりして楽しかったか。」と問い、感想交流をし、活動の称賛をする。
	9 Writing	<単語例> music, sport animal, food		
	10 Reflection Time	たくさん英語を使って話ができ楽しかったよ。早く外国の人と交流がしたいです。		